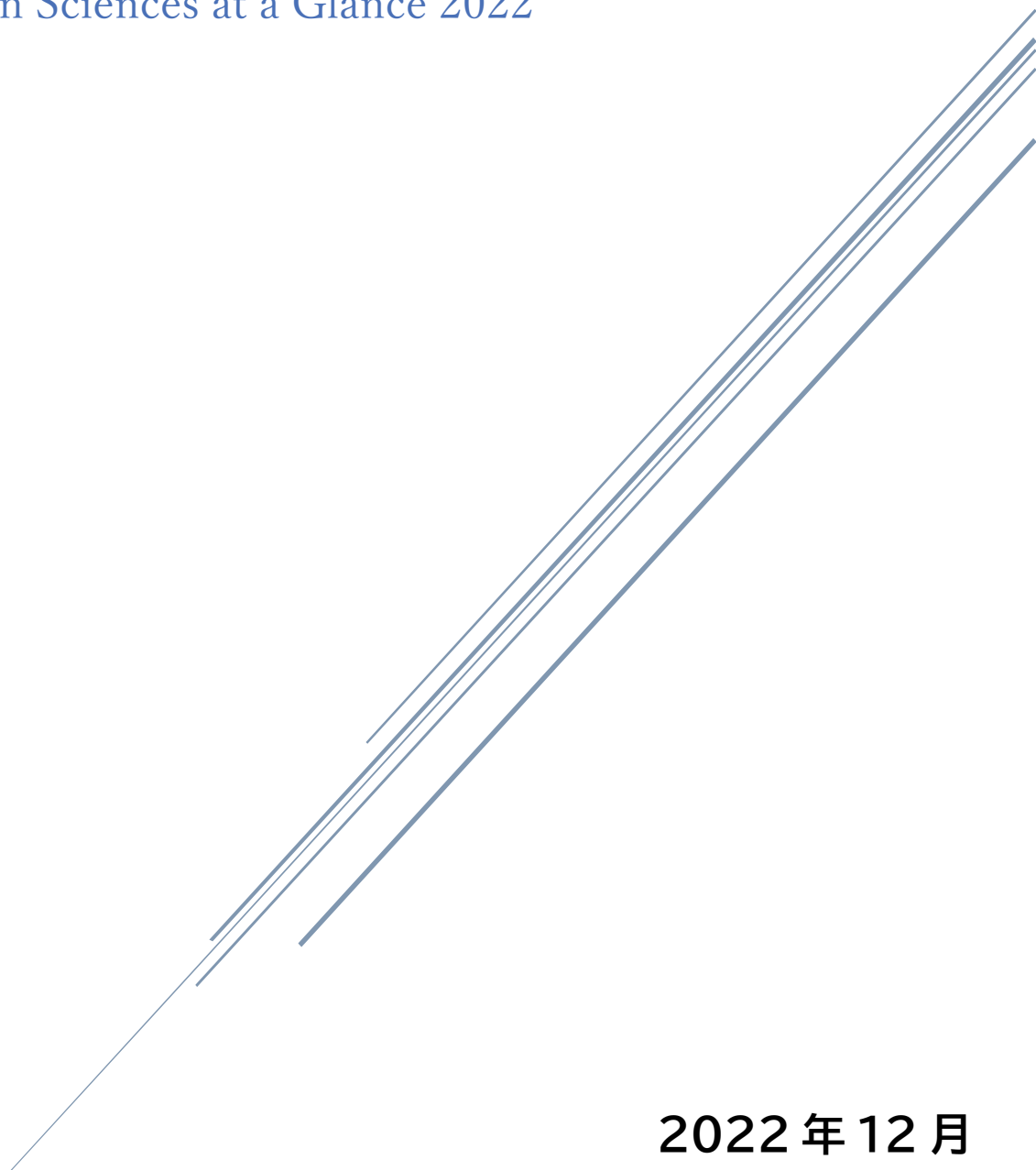


全国人間科学系部局連携ネットワーク アンケート調査報告書

Human Sciences at a Glance 2022



2022年12月

全国人間科学系部局連携ネットワーク事務局

目 次

はじめに	2
調査概要	2
調査結果 -学部組織-	3 - 14
1. 参加大学	
2. 設置数と所在地	
3. 学部名称と学科等の構成	
4. 部局の規模	
5. 学部学生の構成	
6. 研究領域の構成	
7. 部局方針(3つのポリシー)	
8.	
調査結果 -大学院-	15 - 19
9. 大学院学生の構成	
10. 大学院の部局方針(3つのポリシー)	

はじめに

日本国内の大学に人間科学系学部が設置されたのは、1972年の大阪大学人間科学部が最初である。以来半世紀の間に、人間科学を名称に含む大学部局は全国の国立私立大学法人で40を超え、人間科学の名のもとに研究・教育ディシプリンが形成されるに至った。こんにち、人間科学系部局は一層の社会的期待と注目を集めており、日本の大学において「人間科学」は、さらなる発展の可能性をもつ、魅力的なキーワードとなっている。

他方で、「人間科学とは何か」という問いへの答えは、半世紀の間、模索され続けており、各大学において、多様な研究・教育をコンテンツとした人間科学が展開されている。そのため、その定義、領域、理念については必ずしも明確であるとはいえない。さらに、大学内外における人間科学系領域のプレゼンスをめぐっても、検討すべき課題は少なくない。

そこで2022年12月、全国各大学の人間科学系部局が集まり、全国人間科学系部局連携ネットワークを設立することとなった。活動の基本方針は、参加部局間の情報の収集と共有、意見交換、人間科学のプレゼンス向上のための社会的な発信などであり、今後ますますの発展が期待される。

本アンケート調査は、ネットワークの設立に際して、全国の人間科学系部局の現状を把握し、相互に情報収集・共有する目的で、参加大学の人間科学系部局を対象として、大阪大学大学院人間科学研究科内に置かれている全国人間科学系部局連携ネットワーク事務局が実施したものである。

全国人間科学系部局連携ネットワーク事務局（文責 吉川 徹）

アンケート調査の概要

全国の四年制大学および大学院において、名称に「人間科学」を含む部局は現在41大学に設置されている（事務局調べ。うち一大学については「人間学類」）。本ネットワークには2022年12月現在、そのうちの28大学が参加している（参加率68.3%）。

本アンケート調査は、この参加28大学部局の部局長もしくは責任担当者に回答を依頼して実施した。調査方法はGoogle Formsによる自記式ウェブ法であり、2022年7月に実施回収された。その結果、24部局から有効回答が得られた（回答率85.7%）。全国41大学に設置されている人間科学系部局のうち、58.5%にあたる大学から情報提供が得られたことになる。

問われた項目は、大学名称、所在地、設立年、学生定員、教員数、学部、大学院の組織別のアドミッション、カリキュラム、ディプロマの3つのポリシー、男女比、留学生比率、構成される学科など全36問である。一部に主観的判断による回答を含むものの、部局単位で、主に教育実践などについての客観情報が問われている。

本報告書においては、大部分の質問項目について、結果の概略を図表により記述する。なお、一部のアンケート項目については、結果を外部には公開せず連携ネットワーク内部での検討資料として共有するにとどめている。

調査結果

-学部組織-

1. 参加大学

調査実施時点でのネットワークへの参加大学(部局)は以下の 28 大学である。

大阪大学、早稲田大学、島根大学、文教大学、東北文教大学*、尚綱学院大学、筑波大学、常磐大学、東京都市大学、武蔵野大学、専修大学、田園調布学園大学、愛知みずほ大学、金沢星稜大学*、立命館大学、大阪国際大学、大阪経済大学*、神戸大学、神戸女学院大学、神戸松蔭女子学院大学、西南学院大学、筑紫女学園大学、九州女子大学*、大阪人間科学大学、帝塚山学院大学、東洋英和女学院大学、帝京科学大学、九州産業大学(順不同。*はアンケート調査未回答)。

2. 設置数と所在地

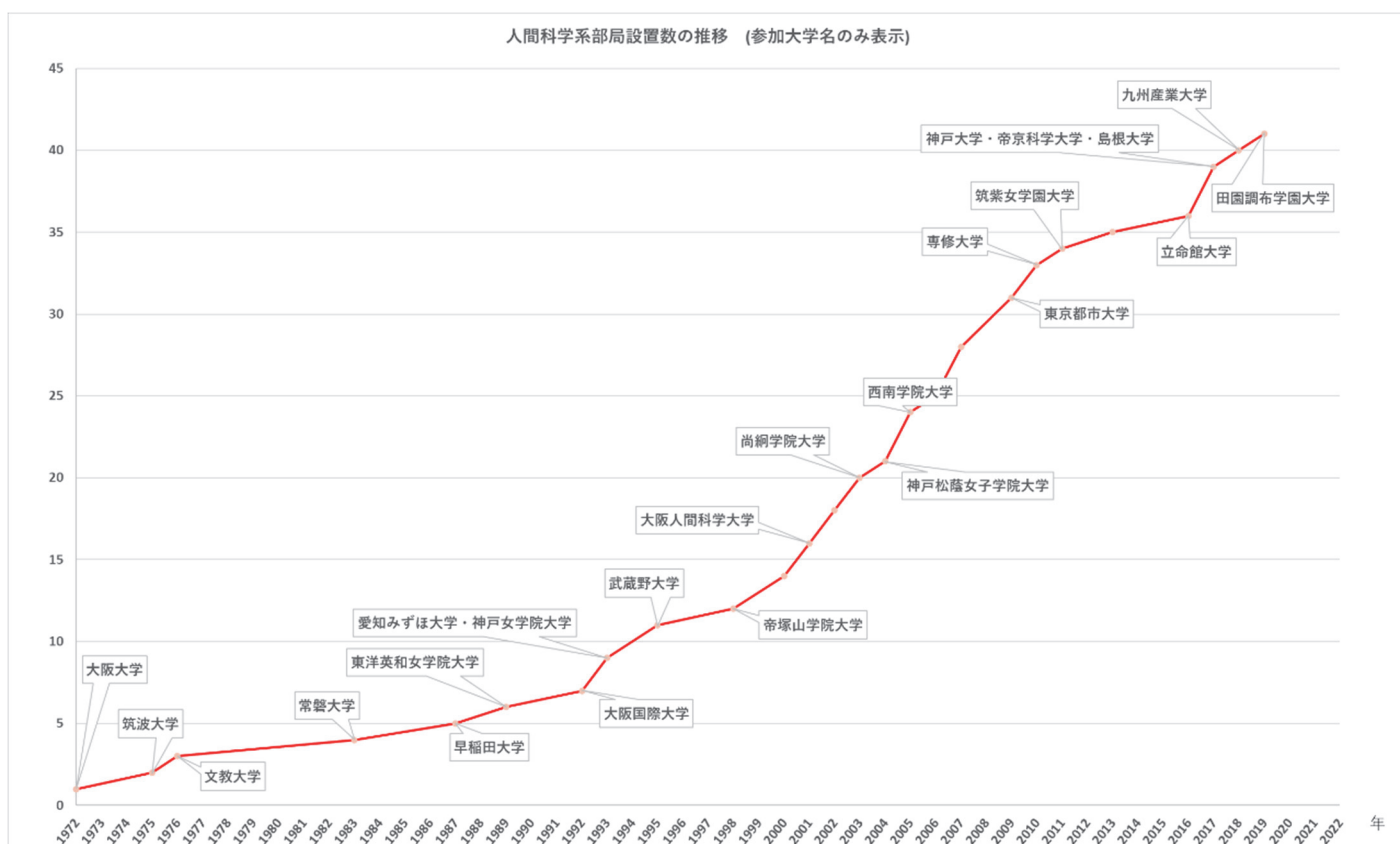


図1 人間科学系部局設立年度と設置数の推移

はじめに人間科学系部局の設置数の過去 50 年間の推移をみる。図1は部局数の増加をグラフにより提示し、ネットワーク参加大学を示している。大阪大学に国内初の人間科学部が設置されたのは 1972 年である。その後の半世紀の間に全国 41 大学に人間科学系部局が設置されている。その内訳は、国立大学法人 5 大学、公立大学なし、私立大学 37 大学である(事務局調べ)。

図1をみると、人間科学系部局は、当初は着実にその数を増しており、前半 25 年においては 11 大学に設置されている。一方、後半期 25 年においては、その数を約 3 倍に急拡大して現在に至っている。グラフを概観すると、「人間科学部」は、21 世紀に入ってからその数を一段と増加させていることがわかる。

大阪大学人間科学部は、創立 25 年の契機において「四半世紀にして翔びます」を合言葉に、当初の行動学、社会学、教育学を基軸とする組織体制から、ボランティア人間科学、グローバル人間科学、臨床心理分野の拡充、共生学の発展と社会学共創の取り組みへと領域を広げ、合わせて大学院重点化に取り組んだ。この一連の変革も、全国の大学組織における「人間科学」のプレゼンスの定着とさらなる拡大という趨勢と軌を一にした、人間科学の学問体系の転換であったと理解することができる。

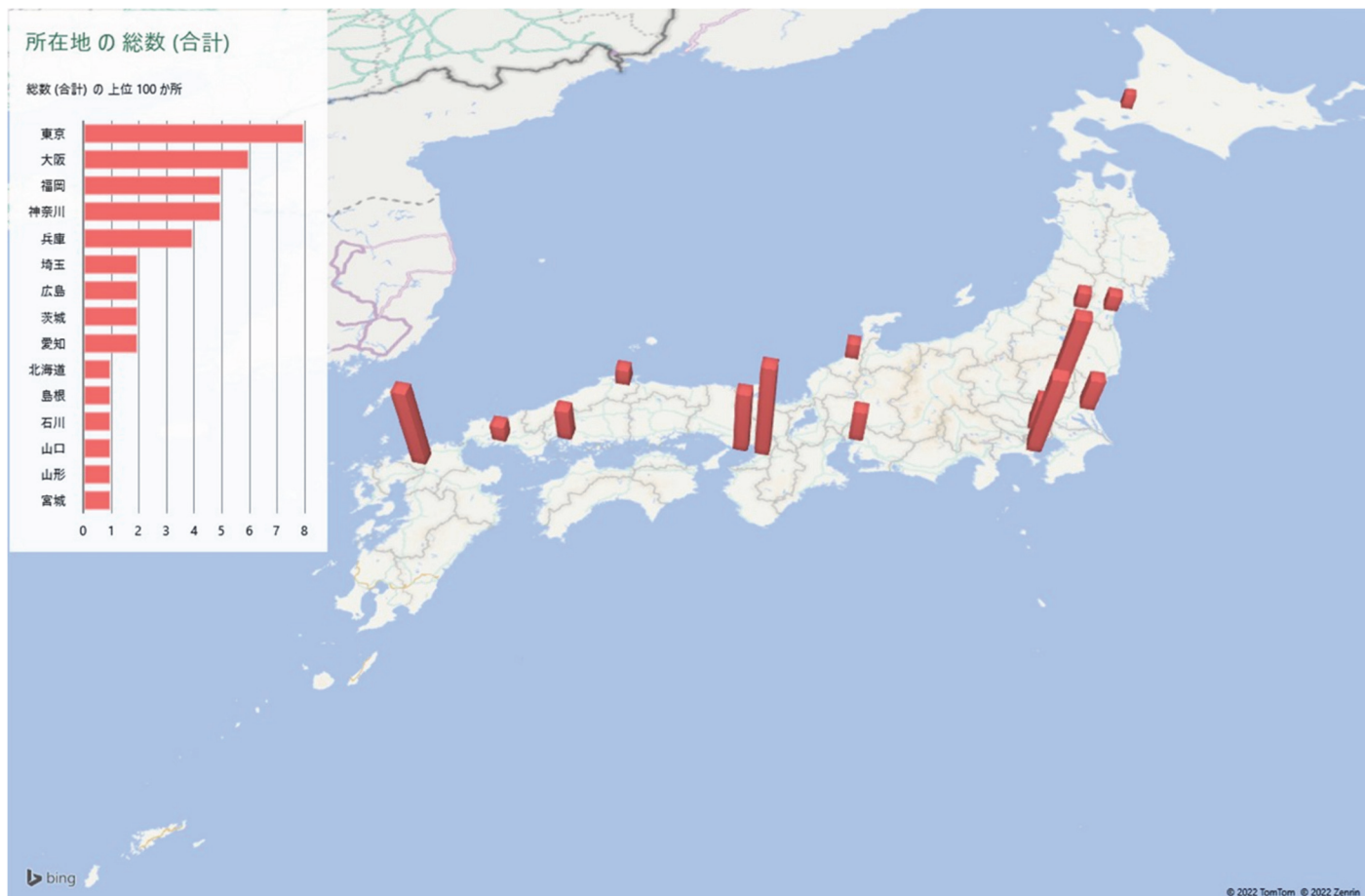


図2 キャンパスの所在地(都道府県単位)

アンケート回答に基づく、人間科学系部局のキャンパス所在地(都道府県)は、北海道から福岡県まで広範にわたっている(図2)。都道府県別の設置数では、東京都8大学、大阪府6大学、神奈川県、福岡県5大学、兵庫県4大学と大都市部(とりわけ首都圏、大阪兵庫、福岡)に集中している。ただし大学所在地の都市部への集中は、人間科学系部局に限った傾向ではなく、現在の四年制大学一般の地域分布を反映している。

3. 学部名称と学科等の構成

学部組織の部局名称では、「人間科学部」が 18 大学と回答全体の大半を占め、「教育人間科学部」、「国際人間科学部」、「総合人間科学部」、「人間科学学術院」、「人間学群」、「総合心理学部人間科学研究科」が各 1 大学である。

各大学の学部を構成している学科やコースの数と名称は、表1に示したとおりである。心理、教育、社会などのほか、家政、福祉、リベラルアーツ、環境など幅広い分野において教育が展開されていることがわかる。同じ人間科学部でも、各大学の教育コンテンツの異なりは大きい。

表1 学部組織における学科等構成（アンケート回答）

大学名称	学部を構成している学科等の名称
大阪大学 人間科学部	行動学科目、社会学科目、教育学科目、共生学科目
筑波大学 人間学群	教育学類、心理学類、障害科学類
文教大学 人間科学部	人間科学科（社会文化コース、人間教育コース、社会福祉コース、スポーツ・コミュニティコース） 臨床心理学科（心の専門家庭教育成コース、家庭・学校・コミュニティ支援コース、自分と社会理解コース） 心理学科（心理学コース、健康心理学コース、ビジネス心理学コース）
常磐大学 人間科学部	心理学科、教育学科、現代社会学科、コミュニケーション学科、健康栄養学科
早稲田大学 人間科学学術院	人間環境科学科、健康福祉科学科、人間情報科学科
東洋英和女学院大学 人間科学部	心理科学専攻、教育人間学専攻
大阪国際大学 人間科学部	心理コミュニケーション学科、人間健康科学科、スポーツ行動学科
愛知みずほ大学 人間科学部	養護・保健コース、健康スポーツコース、心理・カウンセリングコース、人間科学コース
神戸女学院大学 人間科学部	心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科
武蔵野大学 人間科学部	人間科学科、社会福祉学科
帝塚山学院大学 人間科学部	心理学科、食物栄養学科
大阪人間科学大学 人間科学部	社会福祉学科、医療福祉学科、子ども教育学科
尚絅学院大学 総合人間科学部	人文社会科学群 心理教育学群（心理学類 子ども学類 学校教育学類） 健康栄養科学学類
神戸松蔭女子学院大学人間科学部	人間学部心理学科、都市生活学科、食物栄養学科、ファッション・ハウジングデザイン学科
西南学院大学 人間科学部	児童教育学科、社会福祉学科、心理学科

東京都市大学 人間科学部	児童学科
専修大学 人間科学部	心理学科、社会学科
筑紫女学園大学 人間科学部	心理・社会福祉専攻（心理コース、社会福祉コース） 初等教育・保育専攻（初等教育コース、幼児保育コース）
立命館大学 総合心理学部	総合心理学科
帝京科学大学 教育人間科学部	こども学科、幼児保育学科、学校教育学科
神戸大学 国際人間科学部	グローバル文化学科（地域文化系プログラム・異文化コミュニケーション系プログラム・現代文化システム系プログラム・言語情報コミュニケーション系プログラム） 発達コミュニティ学科（社会エンパワメントプログラム・心の探究プログラム・アクティブライフプログラム・ミュージックコミュニケーションプログラム・アートコミュニケーションプログラム） 環境共生学科（環境自然科学プログラム・環境数理科学プログラム・生活共生科学プログラム・社会共生科学プログラム） 子ども教育学科（学校教育学コース・乳幼児教育学コース）
島根大学 人間科学部	心理学コース、福祉社会コース、身体活動・健康科学コース
九州産業大学 人間科学部	臨床心理学科、子ども教育学科、ポーツ健康科学科
田園調布学園大学 人間科学部	心理学科

4. 部局の規模

表 2 には学部定員、専任教員数、大学院修士課程定員、大学院博士課程定員を示している。各大学における人間科学系部局の規模を学部募集定員からみると、最大 560 名(早稲田大学)から最小 45 名(田園調布学園大学)まで、大小さまざまな規模で学部教育が展開されていることがわかる。専任教員数にもこれを反映したばらつきがみられる。

教育課程の展開は、学部のみ(5 大学)、修士課程まで(18 大学)、博士課程まで(13 大学)と水準が 3 段階に分かれる。なお、大学院修士・博士課程の設置を現在計画中、あるいは設置申請中という回答も複数あった。大学院課程の募集定員は、学部定員に対して大幅に少なくなり、大学間の規模のばらつきも一段と大きくなる。ただし大学院については、他部局との連携により別組織として展開している場合や、部局内の一部のみに修士課程が設置されている場合など、大学ごとに事情が異なる。そのため、回答数値をまとめた表内の結果はあくまで参考値にとどまる。

アンケート調査回答に基づくと、人間科学系部局の学部募集定員総数(2022 年度)は 5,918 名となる。ネットワーク未参加の大学も含めた人間科学系部局全体では、1 万人弱と推計される。この数は近年の大学進学者およそ 60 万人前後の 1.7%前後であり、これがこんにちの大学学部教育における人間科学部のプレゼンスのひとつの指標といえるだろう。

表2 部局規模(学部募集定員順)

	学部定員	専任教員数	大学院修士 (参考値)	大学院博士 (参考値)
早稲田大学	560	114	120	45
大阪人間科学大学	425	38	10	
文教大学	400	41	30	2
常磐大学	376	63	10	2
神戸大学	370	159	138	32
西南学院大学	335	47	18	3
神戸松蔭女子学院大学	290	91	10	
帝京科学大学	285	49		
筑紫女学園大学	280	37		
立命館大学	280	30	65	20
大阪国際大学	250	32		
帝塚山学院大学	250	37	30	
九州産業大学	230	40	15	
専修大学	224	32	*	*
武蔵野大学	215	25	30	3
尚絅学院大学	200	70		
神戸女学院大学	176	23	10	2
大阪大学	147	90	89	42
愛知みずほ大学	140	20	15	
東洋英和女学院大学	140	24	30	3
筑波大学	120	100	*	*
東京都市大学	100	14		
島根大学	80	27	25	
田園調布学園大学	45	10		
合計	5918	1097		

空白は設置なし。*は募集人数不詳。

5. 学部学生の構成

図3には留学生比率の回答結果を示している。留学生の比率は、ほとんどの大学で1割以下にとどまっており、一部に国際教育を目指したコース等が設置されているものの、学部学生は主として国内からの進学者となっている。

男女比の概況を女子比率からみると(図4)、女子が半数以上という回答が9割を超えており、女子が6割以上という回答が約半数、女子が8割以上という回答が4分の1に及ぶ。全国的な傾向として、人間科学部(学部)は女子比率が高い学部だといえることができる。

学部学生全体の留学生比率はどれくらいですか。

24 件の回答

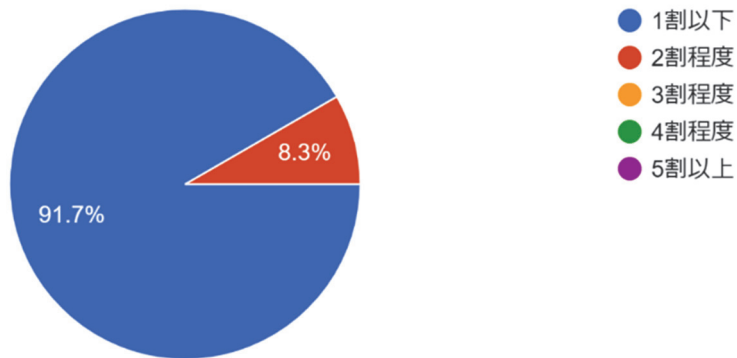


図 3 学部の留学生比率

学部学生の女子比率はおおよそどれくらいですか。

23 件の回答

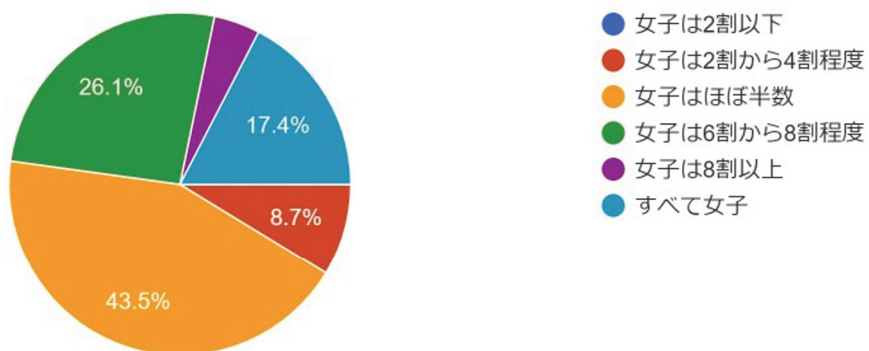


図 4 学部の女子比率

6. 研究領域の構成

図 5 には学部の学術研究領域構成について回答結果を示している。ここからは人間科学系部局内部の領域構成を知ることができる。最も多いのは心理学で 9 割を超えている。人間科学系部局のコア領域は心理学だといえるだろう。続いて教育学、社会学が続く。この 3 領域は 1972 年に大阪大学に人間科学部が設置された当初の学系構成

に一致しており、現在でもこれが人間科学のスタンダード領域であるということができる。

これに迫るのは社会福祉領域(50%)であり、さらに国際関係・グローバル、社会福祉、体育学、医療・看護・公衆衛生が続く、これらは人間科学系部局の研究・教育領域が、現代社会の課題やニーズに合わせ、隣接領域、応用科学領域に拡大している現状を示すものである。

さらに図 5 からは、人間科学系部局の中には、その他の人文社会科学、その他の自然科学、栄養学、建築学までの広汎な領域構成をもつものがあることも読み取れる。

部局内で学部学生が専攻することができる学術研究領域を全てお答え下さい(複数回答可)。

24 件の回答

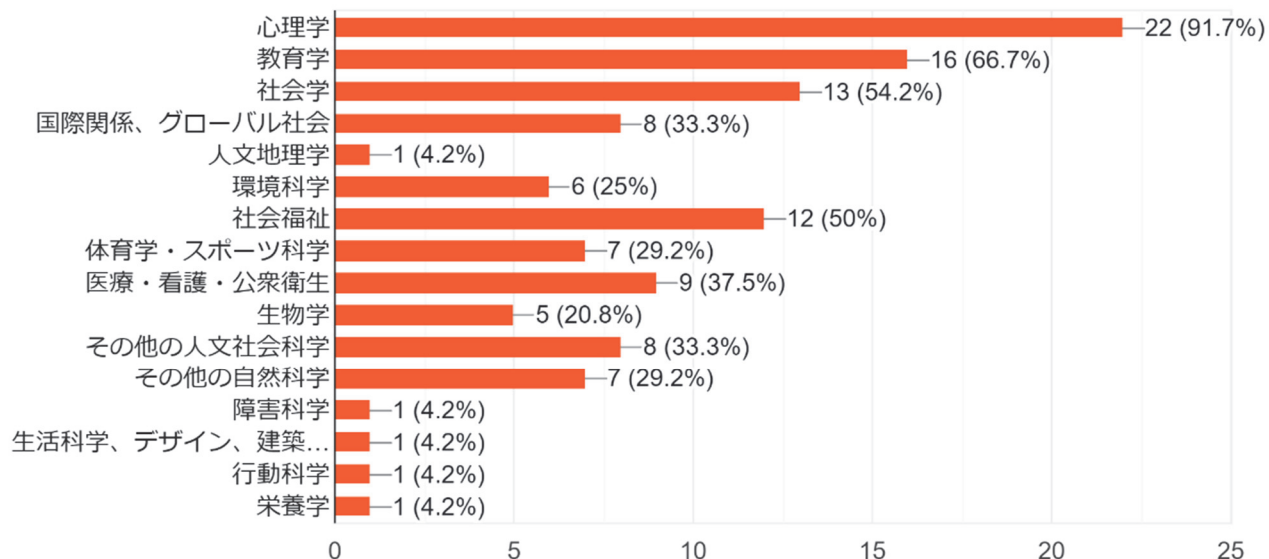


図 5 学部の研究領域構成

一方、図 6 には学生に人気の高い専攻についての回答結果をまとめている。ここからわかるのは、心理学領域が、人間科学系部局において最も多い領域であるだけでなく、学生に人気の高い領域でもあるということである。教育学がこれに続くが、その他の領域はいずれも最も人気が高いという回答の比率は大きくない。

学部学生に最も人気の高い研究分野は以下のどれですか(1～3個程度の複数回答可)。

24件の回答

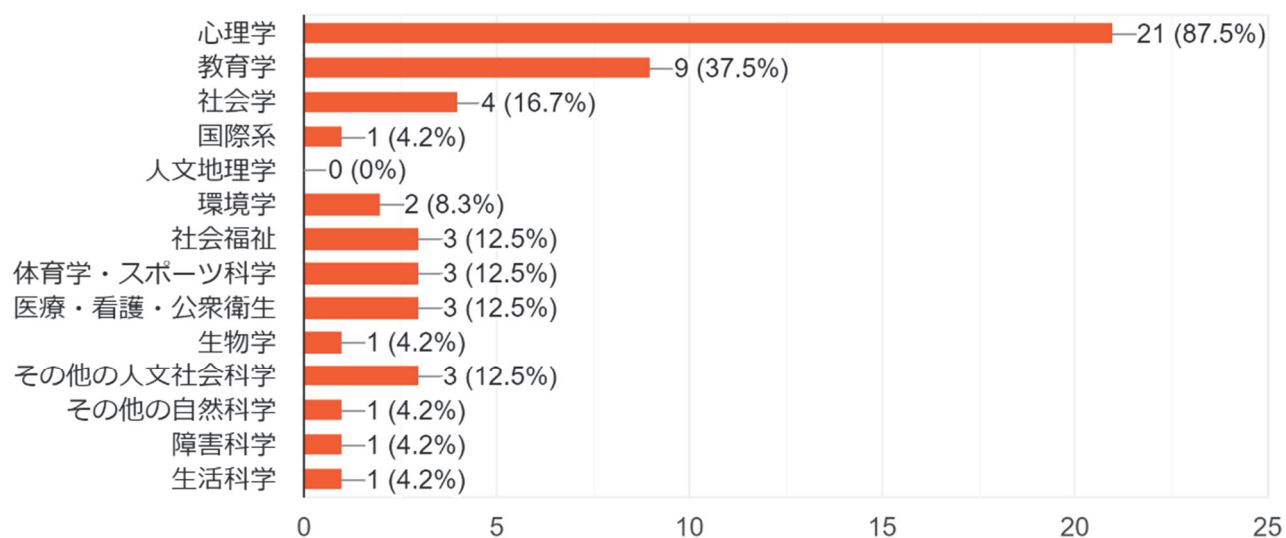


図6 学部学生に人気の高い研究分野

図7には学部のアドミッション・ポリシー(受け入れ方針)を示している。ここでは、人間、社会という言葉が頻出することがわかる。続いて選抜、学校、学科、試験、課題、入学などの制度記述上の必須語が続く。人間科学系部局に特有のキーワードとして注目されるのは、表現力、思考力、解決、理解、貢献、コミュニケーションなどの言葉である。

続いて図8からカリキュラム・ポリシー(教育課程)をみると、ここではやはりキーワードとして心理と社会が際立つ。そして能力、理解、知識、養成、研究という教育にかんする必須記述語が続く。ここで人間科学系部局の特性を示す結果として注目されるのは、コミュニケーション、調査、グローバル、健康、国際、地域などが比較的多くあらわれているということであろう。

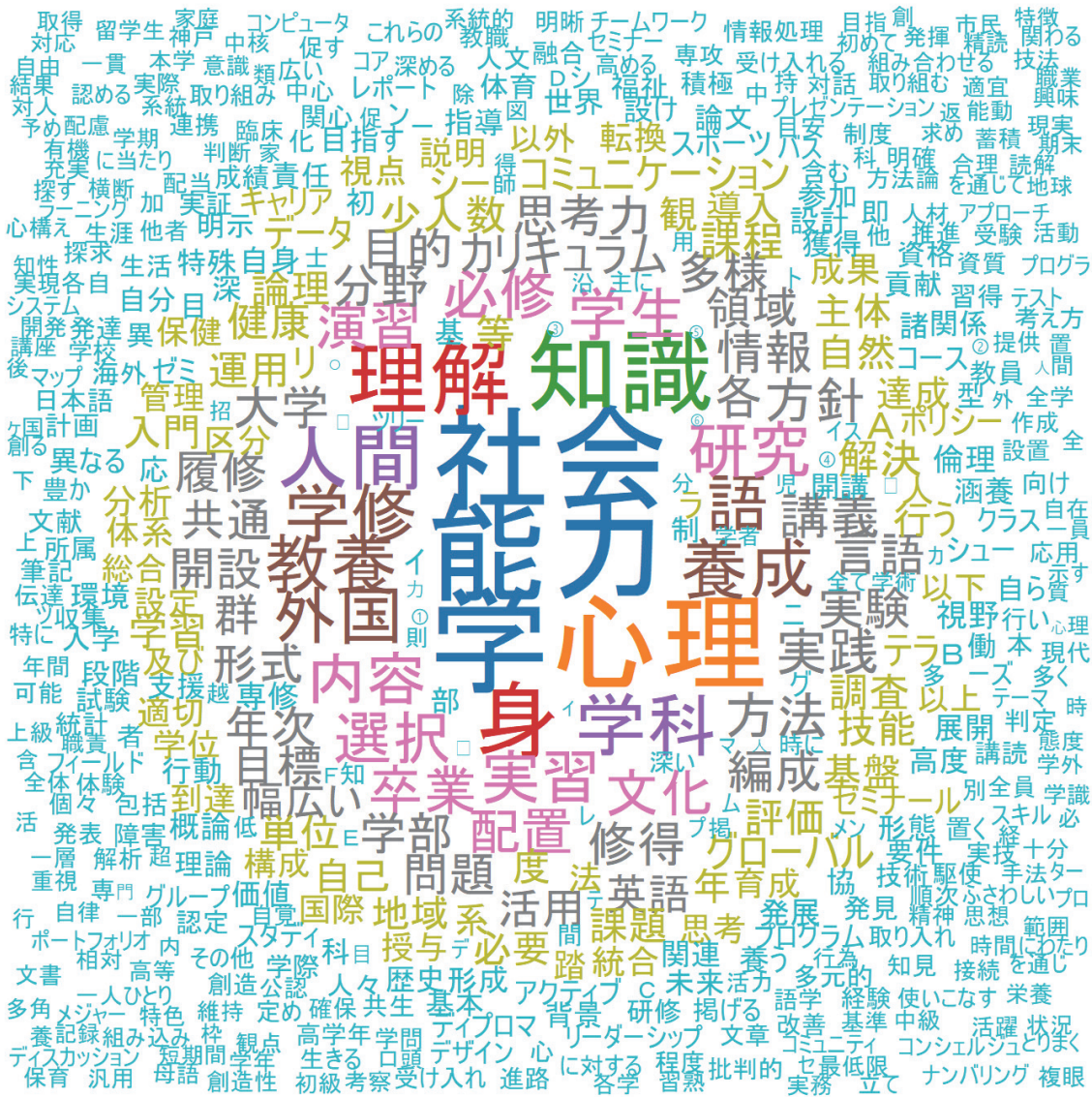


図8 学部カリキュラム・ポリシーの頻出語ワードクラウド

図9にはディプロマ・ポリシー(養成される人材)についてのテキストをまとめている。ここでは社会、人間、知識、能力、理解という言葉が頻出している。とくに注目したいのは、健康、グローバル、コミュニケーション、他者、多様、幅広いという言葉が比較的大きな位置を占めていることである。

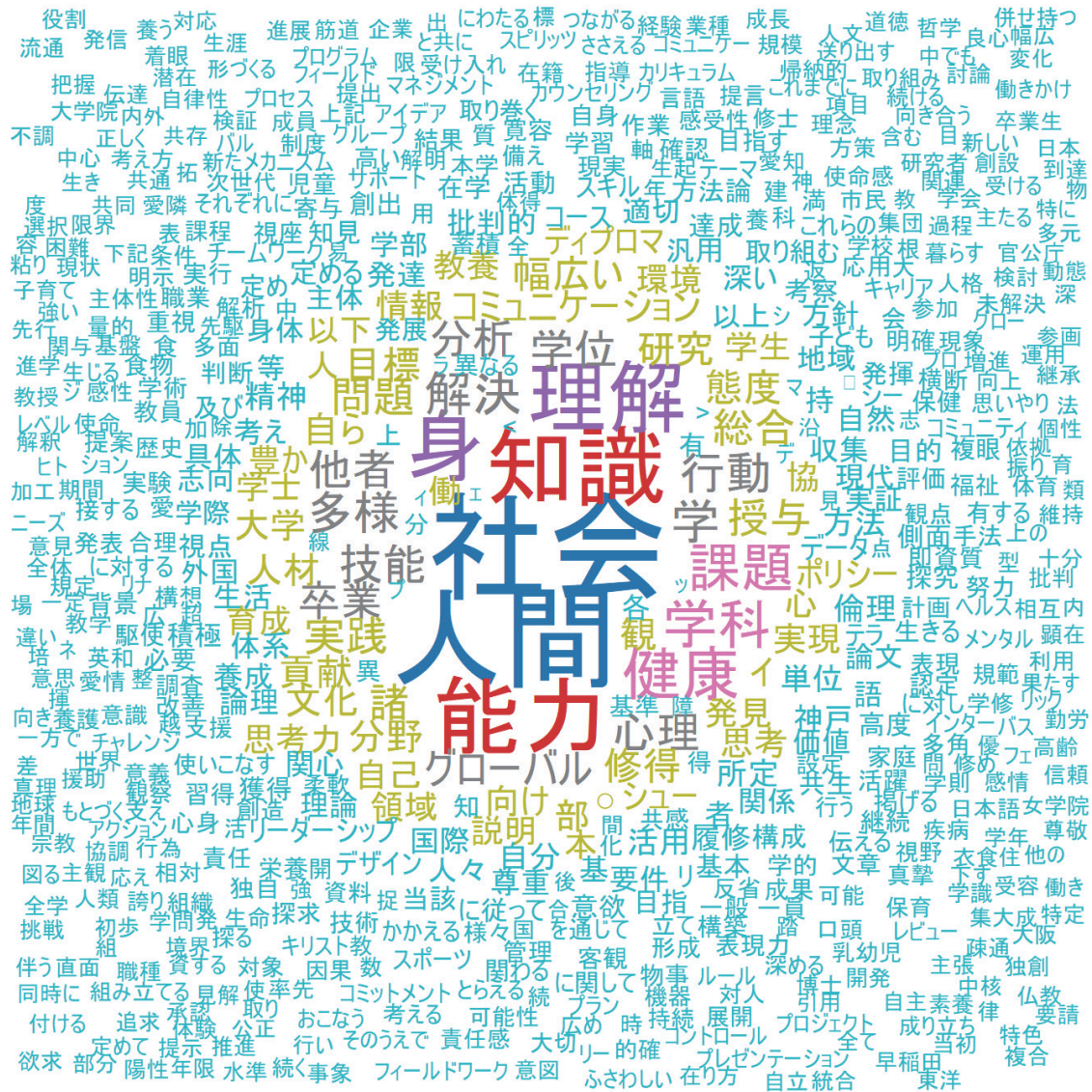


図9 学部ディプロマ・ポリシーの頻出語ワードクラウド

-大学院-

8. 大学院学生の構成

図 10 には大学院の設置状況についての回答をまとめている。本ネットワークへの各大学の参加形態には、学部課程のみ参加、大学院課程のみ参加、すべての課程で参加というパターンがあるが、ほとんどの大学が学部、大学院ともにネットワークに参加している。回答からは、ほぼ半数の大学が博士課程まで、4 分の 3 以上の大学が修士課程までの教育課程を設置していることがわかる。なお、これ以降は大学院課程を設けている 19 大学からの回答結果を掲載する。

図 11 には大学院の留学生比率の回答結果を示している。留学生の比率は、学部学生よりは増えているものの、最大 3 割程度(16.7%)である。留学生比率が 4 割を超える回答は見られなかった。男女比率にかんしては、学部と比べると男性の比率が増えているが、やはり女子比率が高い傾向にある(図 12)。社会人比率(図 13)については 2 割以下という大学が 4 分の 3、3 割以上が 4 分の 1 と大学院リカレント教育に一定の割合が割かれていることがわかる。

大学院は設置されていますか。

23 件の回答

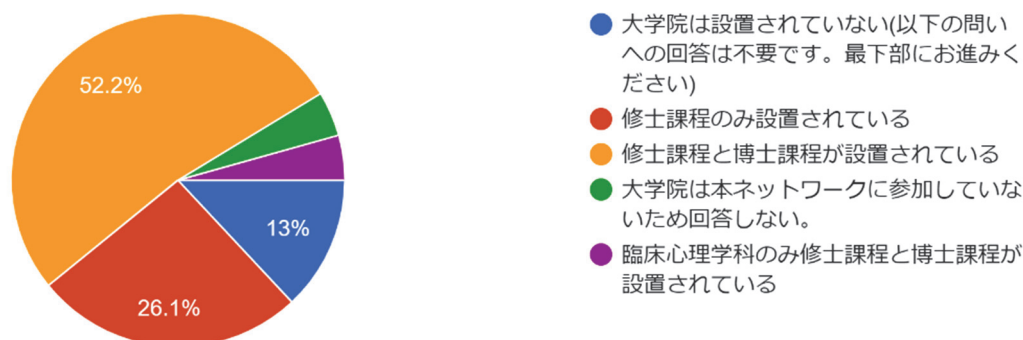


図 10 大学院の設置状況

大学院生全体の留学生比率はどれくらいですか。

18 件の回答

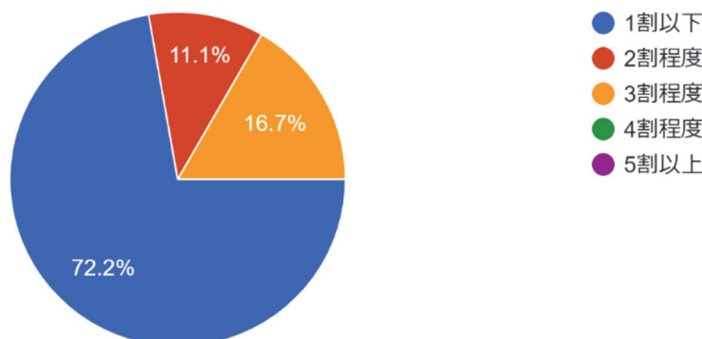


図 11 大学院の留学生比率

大学院生全体の女子比率はおおよそどれくらいですか。
19件の回答

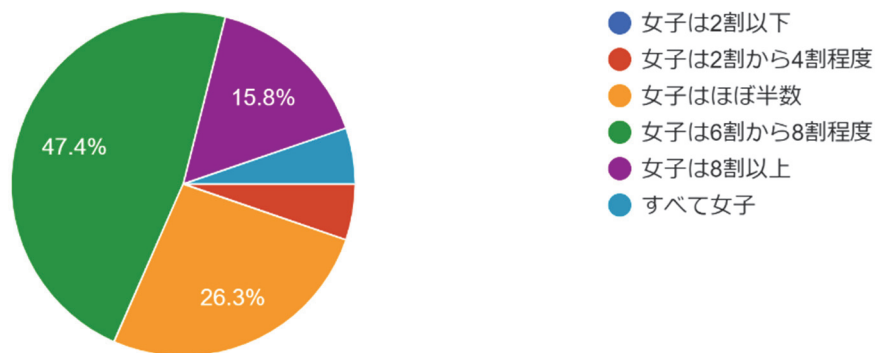


図 12 大学院の女子比率

大学院生のうちの社会人比率はどれくらいですか。
19件の回答

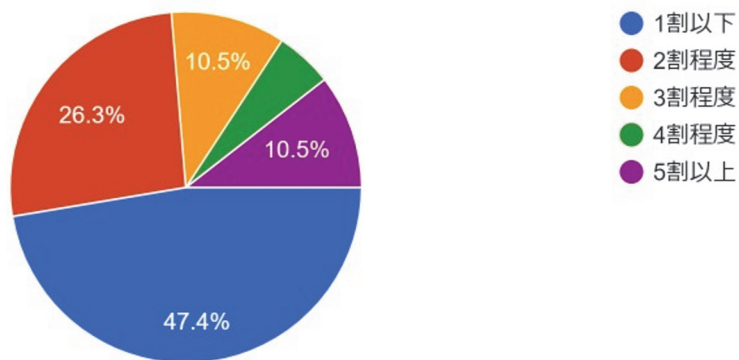


図 13 大学院の社会人比率

全国人間科学系部局連携ネットワークアンケート調査報告書

2022年12月4日 発行

発行： 全国人間科学系部局連携ネットワーク事務局
大阪大学人間科学部・人間科学研究科創立50周年事業委員会



50th **ANNIVERSARY**
人間ヒトすじ50年。
さらなる進化へ。
大阪大学人間科学部・人間科学研究科